

【決議】 コロナ禍を乗り越えるため、会員の英知を結集し 市民の期待に応える活動を積み重ねて、会員拡大につなげよう

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、中国武漢市で 2019 年 12 月頃に原因不明の肺炎患者が発生したことに端を発し、その後短期間に世界各国に拡大しパンデミックに至った。日本政府の COVID-19 対策は後手に回り、しかも根拠をもって説明されたものはほとんどない状況であった。

JSA は、2014 年第 45 回定期大会で「会員 5000 名を早期に回復する」アピールを決議した。しかし、会員拡大の努力は効を奏せず会員の減少傾向はその後も続き、厳しい状況にあることは認めざるを得ない。それにもかかわらず、今般の COVID-19 拡大という深刻な事態に直面して、JSA は使える手段を活用し、社会に向けて情報を発信した。とくに多くの支部がオンラインツールを利用したシンポジウム・講演会・学習会等を開催した。また、提言・声明を発表するというかたちで情報を発信すると共に、多くの会員が講演会の講師を引き受ける等により、進行している事態の理解を深める活動を展開した。科学的な根拠を伴う情報発信は、その分野を専門としない会員にとって、また、十分な情報を得ていない市民にとって、正確な情報が欲しいという期待に応える時宜を得たものであり、JSA の社会的責任をはたす活動である。このような活動や情報発信が、JSA と市民をつなぎ、JSA の存在感を高めることにつながる。会員個人や支部の活動はたとえ小さなものであっても、複数の会員・支部がそれぞれの活動を積み重ねることが、より多くの市民とつながりより厚い存在感を作り出すことになるだろう。

対面での集会在困難な事態は反面、距離を乗り越えてどこからでも参加できるオンラインイベントの一般化という変化をもたらした。支部や地区の活動のある部分は、開催地という地理的な制約から逃れられるようになった。各支部や地区だけではなく、会員同士が支部を越えて連携し、企画の独自性を競いながら、どこからの参加者も受け入れる開かれた活動を展開する機会が生まれた。第 23 回総合学術研究集会、第 15 回女性研究者・技術者全国シンポジウムもオンラインで 2020 年 12 月に開催される。会員の英知を結集し多数の市民参加者を得て、これら集会を成功に導こう。その経験を梃子に、前例にとらわれることなく、オンラインツールをさらに活用して、会員や支部・地区の活動を一層活性化し、コロナ禍を乗り越えるため市民が求める情報を社会に発信・共有して、会員の拡大に取り組むことを決議する。

2020 年 9 月 27 日 日本科学者会議第 51 回定期大会